

令和6年1月9日

歯科医師会だより 81号

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます（元旦から能登半島で東日本大震災を思い出すような大地震があり新年を心からお祝いする気分ではありませんが）。昨年は皆様のおかげで法人化とホームページの開設に目処が立ちました。また新型コロナウイルス感染症も5類となり懇親会も5回開催できました。今年は法人化の実現、ホームページの開設を実行したいと思います。そして4年ぶりとなる新年会開催の他に、会員同士のさらなる親睦を深めるためにボウリング大会も開催する予定です。このような目標を達成することによって2024年は不幸な自然災害が起こった年としてではなく、仙南歯科医師会にとって充実した皆様の記憶に残る年にしたいと考えています。今年も執行部一堂当会の発展のために努力する所存ですのでご協力の程何卒よろしくお願いいたします。

仙南歯科医師会会長 千木良 尚志

令和5年度 第2回仙南歯科医師会定例会

令和5年12月20日（水）18:00～19:45
総合会館 LaLa さくら
参加者：37名

次 第

1. 開会 副会長 目黒 一美

2. 議長選出

議長 清原 憲治 先生

議長を務めさせていただきます清原憲治と申します。よろしくお願いいたします。

3. 挨拶 会長 千木良 尚志

皆さん、おぼんでございます。診療でお疲れのところ第2回定例会に出席していただき、誠にありがとうございます。早速始めたいと思います。

4. 報告

1) 各支部報告

①柴田 小田部 晃二郎 先生

会務について報告（p2-3）

会員動向：大沼弘子先生が一身上の都合で退会されたことを報告（p4）

②白石 小野 貴志夫 先生

会務について報告（p2-3）

亘理孝雄先生が12月31日をもって退会されることを報告。

七ヶ宿の西山学園の校医を現在募集をかけていることを報告。

③角田 目黒 一美 先生

会務について報告（p2-3）

2) 会長 千木良 尚志

保健所からの依頼により、スマートライフ通信にフレイルについて寄稿したことを報告（p38,39）

3) 副会長 小田部 晃二郎

特になし。

副会長 目黒 一美

診療報酬改定が 0.88 プラス改定であることを報告。

4) 宮歯理事 小屋 博

来年度には宮歯の終身会員が 3 割を超えることを報告。

5) 宮歯常務理事

特になし。

6) 専務理事 飯淵 信也

- ・会務報告、記載の通り (p2,3)
- ・仙南歯科医師会新年会は 1 月 27 日、18 時からホテル原田 in さくらにて行う予定。
- ・令和 5 年表彰者、会員動向について報告 (p4)
- ・事務員さんについて報告：井伊さんが 9 月末に退職、10 月 17 日から鈴木さん雇用。

※鈴木さんより挨拶

7) 各種委員会

○医療管理・西村先生

- ・仙南歯科医師ゴルフ大会を開催したことを報告 (p3)
- ・保健所立入検査について：支部では始まっているところもある。当地区は今年度はない。来年度は実施されると思うので準備をお願いします。
- ・歯と口の健康まつり川崎大会を開催したことを報告 (p30,31)

○地域保健・前田先生

- ・健口まつりのアンケートについて報告 (p32,33)
- ・来年度の休日当番医について (p40,41)

○在宅・武者先生

- ・新しい報告書を作成していることを報告。
- ・川崎の施設協力医を笹島先生に引き受けていただいたことを報告。
- ・ホームページ制作が進んでいることを報告。

○学術・平井丈先生

- ・令和 5 年度仙南歯科医師会学術講演会を開催したことを報告 (p34)

○学校・後藤拡先生

- ・令和 5 年度の学校歯科検診の集計結果について報告。訂正版をまたメール・FAX で流す。

○社保・清原憲先生

- ・診療報酬改定の施行は、今回は 6 月からであることを報告。
- ・それに伴い、講習会はおそらく 4 月になる。
- ・情報提供からの個別指導：医療費通知と窓口の領収書の数字が合わないことで通報になることがあるので注意してほしい。

(長谷先生)

- ・7 番をヘミセクションしている場合、6 番の CAD/CAM 冠が査定される。
- ・疑い病名で投薬は査定されるため、確定病名が必要。
- ・上顎洞炎で CT を撮影する場合、“菌性”上顎洞炎と記載する。

○宮歯協同組合・山家先生

- ・宮歯会報 555 号に記載。(p36,37)
- ・日専連の担当者が説明会をする。

8) みやぎ県南中核病院口腔外科 伊藤 正健

特に報告なし。

9) みやぎ訪問歯科・救急ステーション 奥田 まゆみ

特に報告なし。

10) その他

特になし。

5. 協議

1) 法人化に関して

(玉野井先生) (p5~)

- ・p6 からの答申書の内容について説明 (p7,8 : 総論、p9-22 : 各論・定款 (案)、p23 : 結論)
- ・法人化に伴う支部の位置付けについて説明 (p25,26)

※森先生からの事前質問

事前質問① : 会員費の上昇にはどのような対応を考えておりますか。

(千木良先生)

- ・今のところ、会費の値上げは考えていない (しばらくはない)。
- ・支部助成金を減額することで、ランニングコストをほぼ賄える。
- ・ホームページによって、通信費を削減できる。
- ・休日当番から 5,000 円を徴収することを検討している。
- ・パーティーについては役員会で検討する。
- ・歯の衛生週間の事業は縮小する。このことで経費が下がる。
- ・会員の高齢化などにより会費収入が下がった場合 (会費免除の会員が増えた場合)、対応を検討するが、その場合は会費の値上げもあるかもしれない。それは、その時の執行部が考えること。

事前質問② : 旧柴田郡歯科医師会が有した財産は個人に帰属すると思うが、どのような機会に具体化されますか。

(飯淵信先生) : 各支部長に説明いただく。

(小野先生・白石支部)

- ・白石支部は先日の定例会で話し合いをした。
- ・財産は一旦会員に分ける (約 450~500 万円)。別の組織として集まった時に運営の形態を検討する。
- ・定例会に不参加の先生もいたため、その意見も聞きながら、来年度のはじめには決定する。

(目黒先生・角田支部)

- ・角田支部は一般会計と共済と基金を合わせて 238 万円程ある。
- ・角田丸森歯科医療懇話会 (仮称) という、親睦と情報交換の会の運営費としてあてていきたい。
- ・他支部との整合性が必要だが、事務局は存続させたい。行政からの信頼も得ているため、窓口としての業務を続けた方が良い。仙南歯科医師会が本店であるなら、支店のようなもの。そのマネジメント費用は本店からいただきたい。

(小田部晃先生・柴田支部)

- ・2月の支部定例会で意見を聞いた上で、4月の総会に間に合うように決定する。

- ・個人的には幾許かは会員に戻して、残ったものを持参金として寄付をする事を考えている。
- ・白石支部から歯科医師会室を提供していただいている。これに酬いるためにも私達も相応のものをもって今回の変化に臨んでいきたいと思っている。

(清原憲先生)：質問ある方はお願いします。

(相原先生)：定款(案)の第43条の(2)会員が欠けたとき、とは何か。

(玉野井先生)：会員が誰もいなくなったときを指している。

(遠藤先生)：定款(案)に支部の設置について書いていないが、設立の時に決めていなくてもいいということか。

(玉野井先生)：会計上、支部があった場合に財産の目録などが必要になるため、後から支部やめます・いれますというのはできないと思う。

(遠藤先生)：今の各支部の話の考えると、支部を設置するという考えのところと、支部を設置しないという考えのところがあるようだが、それはどうなのか。

(千木良先生)：白石についていうと、支部は解散する。就学時健診や乳幼児健診などは誰かが大将になって行政と接触しなければいけない。目黒先生は支店のような、と言っていたが、その運営に関しては本部の仙南歯科医師会からお金を出すと思う。しかし、「支部」という言い方はしない。支部や支部長はなくなる。名称を考えなければならないが、実際は「支部」の仕事のようなものを行う。

(遠藤先生)：白石は支部を設置しない、角田もしない、柴田だけ支部を設置するといった場合、どうなるのか。

(千木良先生)：歯科医師会としての業務をやるのであれば、仙南歯科医師会という名前を使えないということ。独立したものがもう一つあることになってしまう。支部単位で衛生週間事業などを行う場合に、何のために合併したのかということになってしまうので、そういう支部は、置けないことはないが置かないほうが良いということ。

(遠藤先生)：会長の考え方としては、p25の支部の位置付けの中で、「②法人化する場合の(2)支部を設置しない場合」の方向で考えているという認識でいいのですか。

(千木良先生)：細かい所は違っているところもあるが、支部を設置しないと言うことでは、(2)が近いと考えている。

(玉野井先生)：私は(1)だと思っていた。(3)は、集まって懇親会をする別組織があってもいいんじゃないか、という形。私としては聞いていて、(3)のイメージが強いのかなと思った。

遠藤先生が言うように、白石角田には支部がないのに、柴田に支部があるのはおかしい話だと思うので、それは実行委員会ですり合わせをした方がいいと思う。

(真壁先生)：2市7町と言う行政があることが不幸なこと。当分合併はしないだろう。行政との交渉に、地区のことをわかっている担当者が張り付く、3人くらいの委員会でもいいし、その人に各行政が電話する形がいいのではないか。余計なものを作るとますます面倒なのではないか。

(亘理滋先生)：真壁先生の意見に賛成。涉外係・対行政の役割を各地域で設けて、何人かで学校医のことなどを対応してはどうか。現在の休日診療もそうだが、そういう形で対応していけば、支部というものを作らなくてもいいのではないか。対行政くらいしか仕事がないのではないか。懇親は懇親であればいいわけで。

(千木良先生)：支部という名前は使わない。名前は懇話会でも何でもいいが、多分その会の世話役になる先生が今の支部長、副支部長、幹事だろうから連絡係といったら失礼だが、対行政はその人をお願いして、支部助成金という名前ではなく、運営費としてある程度のお金は出せると思う。基本的には、

真壁先生と滋先生と同じ意見。

(遠藤先生)：支部長がいれば、長が行政に行けるのではないか。懇話会の長が行政に行ってちゃんと話し合いになるのかということ。

(目黒先生)：各地域の役割と、角田で提案したような会員同士の親睦の集まりとを分けて考えるべき。支部には支部の意見があるとダブルスタンダードになる。角田・柴田・白石が別な基準で仙南歯科医師会の名前を使って事業をやるということは、対等になってしまうということ。支部にしてしまうと、全部が同じ定款でやっているわけではないので、仙南歯科医師会と支部が対等になってしまう。役割としては支店、局、地区担当者など、仙南歯科医師会の一つのルールで行政と対峙する。各地区の懇談・懇話・親睦は好きにやれば良い。角田で設立したいのは、懇談と情報交換、年に3回集まるもの。行政とのやりとりはしない。

(小野先生)：支部を作ったときに、支部は本会の活動はできない。例えば、支部長は行政と仙南歯科医師会の名目の契約はできない。基本的には交渉の立場に立てない。支部を設置した場合は、本会の事業以外をすることで定款では認められている。行政と交渉するならば、本会の会長代理ということでは動けない。基本的には、支部は本会の活動をできないというご理解をいただいた方がわかりやすいと思う。

(長谷先生)：支部を設置する場合は、年度会計は全て合算し、とあるが、それは支部を設置しない場合でも合算するのではないのか。

(玉野井先生)：支部を設置しない場合というのは、仙南歯科医師会とは別団体として、柴田郡歯科医師会が任意団体としてあることを指している。これは別会計。宮歯と柴田郡歯科医師会の会計が別であるように。支部を設置するということは、法人の一部ということになるので、連結決算しなければならない。

(長谷先生)：法人化するにあたって資本金は必要にならないのか。

(玉野井先生)：必要にならないと思う。

(長谷先生)：各支部人数割で拠出金という形で集めるということはないのか。

(玉野井先生)：仙南歯科医師会として合併するときに特別会計として集めている。それをやったときのものが残っているという形。それを更に集めるという考えはあるかもしれないが、それを判断するのは執行部と総会であると思う。

2) その他

特になし。

6. その他

特になし。

7. 閉会 副会長 小田部 晃二郎

先生方、数々のご意見を頂戴いたしまして、ありがとうございます。法人化に関する諸問題について、十分ご理解いただけたのではないかなと思っております。さて、暦を見ますと間もなく冬至ということで、寒さ本番となってございます。どうぞ先生方、良いお年をお迎えくださいますように御祈念を申し上げて、本日の令和5年度第2回定例会を閉会と致したいと思っております。どうもお疲れ様でした。

【編集後記】

皆様、明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が2019年12月に中国で発見されてから4年になります。昨年5月にはついに新型コロナウイルス感染症も5類へ移行したため参集型の行事も増えてまいりました。そこにきて秋口からのインフルエンザの大流行。小さな子供がいるスタッフは軒並み欠勤で、どの医院もスタッフ不足に悩まされていたのではないかと思います。私の家庭はというと子供たちもご多分に漏れずインフルエンザにかかりました。長男にいたっては受験生ということもあり心配ではありましたが、受験間近で雇うより良いかなと思いましたが、が、ちょっと冷静に考えて受験生の父親って何？何かしてあげている？というか何もしないから邪魔？と自分の存在意義を改めて考えさせられた期間でした。話を戻し、仙南歯科医師会としては継続的に様々な課題があり、千木良会長を初め役員一同鋭意協議を行っている状況でございます。本年は法人化、ホームページ開設等々新たな節目になる年と思っています。仙南歯科医師会会員の皆様のご協力のほど宜しくお願いいたします。

(前田 真史 記)